

4 タイ王国

- 視察先 ① バンコク病院
- ・ バンコクインターナショナル病院：日本専門クリニック
 - ・ バンコクハート（心臓疾患）病院
- ② 伊勢丹（タイランド）
- 目的 タイ・バンコクにおける高度医療と日本人等外国人に対する医療サービスの現状についての調査及びタイの小売業界の現状及び展望と本県物産の販売の可能性についての調査
- 行程 バンコク病院では、マーケティングエグゼクティブ・守谷登茂子氏の説明を受けた後、質疑・意見交換を行なった。
- 伊勢丹では、ゼネラルマネージャー・小林 健氏から説明を受け、その後、質疑・意見交換を行なった。

(1) タイの概況

① 一般事情

- 面積 51万3,115Km² (日本の約1.4倍)
- 人口 約 6,000万人、うち邦人の在留届出者は22,731人（常時 4万人と推測）
（首都バンコクは60万人）
- 民族 タイ族80%、中国 10%、マレー等山岳民族10%
- 宗教 仏教95%、イスラム教 4%、その他
- 略史 スコータイ王朝（13世紀）、アユタヤ王朝（14～18世紀）、トンブリー王朝（18世紀）、チャックリー王朝（1782年～現在）、立憲革命（1932年）

② 政治

- 政体 立憲君主制
- 元首 プミポン・アドゥンヤデート国王（ラーマ9世王、1946年6月即位、今年在位60年）
- 議会 上院 200名、下院 500名の二院制（両院とも民選）
- 政府 首相タクシン・シナワット
- 政情 1992年 軍と民主化勢力が衝突（5月事件）から民主化が定着
1997年 新憲法成立
2001年 下院選挙でタイ愛国党圧勝、タクシン政権成立
首相の強力なリーダーシップでアジア通貨危機による経済危機を克服。
＝『タクシノミクス』
2005年 下院選挙、タイ愛国党単独による第2期タクシン政権成立
強権的政治と一族の不正疑惑：野党等による退陣要求が高まる。
2006年 2月 下院解散
4月 総選挙：野党ボイコットにより選挙無効・やり直し（投票日未定）
タクシン首相退陣表明

③ 経済及び日タイ関係

- 主要産業 農業 就業者は人口の約40%でGDPは10%以下
製造業 就業者は人口の約15%でGDPは約35%
- GDP 1,633億ドル 1人当たり 2,722ドル（2004年）
- 経済成長率 4.5%（2005年）

- 失業率 2.0% (2004年)
- 輸出 総額 961億ドル (2004年)
 主要品目 コンピューター、自動車・部品、集積回路、天然ゴム
 相手国 1. 米国 2. 日本 3. 中国 4. シンガポール 5. マレーシア
- 輸入 総額 944億ドル (2004年)
 主要品目 原油、機械・部品、電気機械・部品、化学製品
 相手国 1. 日本 2. 中国 3. 米国 4. マレーシア 5. シンガポール
- 通貨 パーツ (1ドル=約38パーツ、1パーツ=約2.8円)
- 日タイ関係
 - ・600年にわたる交流の歴史。友好関係を維持。皇室・王室間の親密な関係。
 - ・政治・経済・文化等緊密な関係と活発な人的交流。
 - ・タイから見て、日本は貿易額・投資額・援助額共に1位。
 - ・日本にとりタイは、東南アジア地域における重要な生産拠点かつ市場。
 - ・バンコク日本人商工会議所の加盟企業は1,200社。
 - ・2005年9月には、日タイ経済連携協定(JTEPA)締結へ大筋合意。
 (FTAや、投資、政府調達、協力等幅広い分野における経済関係の強化)

(2) 視察結果の概要

① バンコク病院

- 1972年、私立病院として医師、薬剤師らが「高度な医療の提供」をめざして設立。
- 2年後増床。タイ王国投資委員会(BOI)認定(病院初)。
 現主要株主：バンコク・エア・ウェーズ

○ 施設

(1) バンコク病院

- ・ベッド数 500床
- ・外来患者最大収容数 2,500名/日
- ・科目 内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、循環器科、泌尿器科、皮膚科、脳神経外科、脳神経内科、リハビリ科、精神科、眼科、透析、予防接種、健康診断
- ・手術室 12室、集中治療室=ICU、CCU(心臓)、RCU(呼吸器系)=70室
- ・MRI、CT、PET
- ・24時間対応救急 ヘリコプター、飛行機等の救急医療搬送受入、心臓専門救急車
- ・2001年度タイ国総理大臣賞を医療機関として初めて受賞(タイ国産品輸出分野に関する最も栄誉ある賞)

(2) バンコクインターナショナル病院(創設 2006年1月)

- ・ベッド数 94床
- ・科目 総合内科、健康診断センター、日本人専用クリニック(JMS)、外国人専用クリニック、アラブ人専用クリニック、がん病院

(3) バンコクハート(心臓疾患)病院(創設 2004年12月)

- ・病院前に6階建て、心臓センターを拡張
- ・ベッド数 70床(VIP8床)、手術室 3室、集中治療室 20室
- ・科目 心臓・循環器疾患専門科
- ・医師 約40名、日本人看護師 3名、手術用ロボット「ダビンチ」導入
- ・入院費用 18,000~45,000円

・平均入院数 4~5日(リハビリ棟は通院者多い)

○ グループ病院

- ・タイ国内 13病院
- ・クリニック カンボジア (1)
- ・オフィス カンボジア (1)、ベトナム (1)、バングラデッシュ (1)

○ 日本人専用クリニック(ジャパンメディカルサービスセンター=JMS)

- ・医師 15名(日本の医大卒)、日本語通訳 15名(うち日本人 7名)
- ・診療時間 7:00~20:00(毎日)、コールセンター 24時間日本語対応
- ・健康診断(所要時間約 2時間のワンストップサービス)
- ・人間ドックコース(1泊 2日、歯科診療も含まれる)
- ・救急対応(タイ全土、周辺諸国からの搬送も可能、専門医も同乗)
- ・海外旅行傷害保険によるキャッシュレスサービス
- ・外国人専用病棟(個室、日本食、NHK衛生放送完備)
- ・各種証明書、診断書の発行
- ・日本人専用無料シャトルバスの運行

② 伊勢丹(タイランド)

○ タイ王国経済

- ・GDP伸び率 2003年 106.8%
- 2004年 106.2%
- 2005年 104.7%(予測)
- ・政治的不安定、原油高騰で消費トレンド下がる。(103%代も)

○ 近隣諸国との比較

卸・小売業付加価値合計	(名目GDP比)	名目GDP	人口	
タイ王国	389億ドル	(24%)	1,635億ドル	6,239万人
フィリピン	107億ドル	(12%)	864億ドル	8,299万人
マレーシア	136億ドル	(12%)	1,178億ドル	2,521万人
シンガポール	153億ドル	(14%)	1,068億ドル	434万人
インドネシア	313億ドル	(12%)	2,576億ドル	21,759万人

○ 国内 4大小売業店舗数比較

小売業	2004年	2005年	前年比
百貨店	42	44	104.8%
量販店	153	163	106.5%
食品スーパー	105	171	162.9%
コンビニエンスストア	4,573	5,023	109.8%
合計	4,873	5,401	110.8%

○ 小売市場業績

グループ名	ブランド名	店舗数	売場総面積	売上高
セントラル・リテール	セントラル・デパート トップス	314	123.6万㎡	15.59米ドル
エカチャイ・ディスト リビューション・シス テムズ	テスコ・ロータス・テ スコ・エクスプレス、 バリューストア	107	57.1万㎡	12.68米ドル

ビッグCスーパーセンター	ビッグC	44	51.0万㎡	11.77米ドル
CPセブンイレブン	セブンイレブン	2,861	71.8万㎡	9.47米ドル
ザ・モール・グループ	ザ・モール・デパート	17	63.0万㎡	8.82米ドル

○ 日本の百貨店

- (1) 伊勢丹(タイランド) 1992年～(来年15周年)
 - ・セントラル・リテール・グループのセントラルワールドプラザ内
 - ・サイアム駅とチットロム駅の間。バンコク最大のショッピングエリア。
- (2) その他 タイ東急 (1997年、バーツ暴落の際、大丸・そごう撤退)

○ 2005年度小売業は競争激化

- (1) 増加した店舗数
- (2) 大型店舗の改装と新規出店(投資総額 2005年度 400億バーツ)
- (3) 外資の進出(トイザラス、レッドアース等)

○ 2006年の展望

- (1) 好調タイ経済の持続(GDP 5%成長 → 国民1人当たりGDP 2,700ドル)
- (2) 出店や改装でさらに競争激化(小売業 105~115%伸び)
- (3) サイアム駅周辺の再開発
 - ・サイアムパラゴンの完成(ザ・モール・グループ): 2005年12月
東南アジア最大の 50万㎡
250以上の高級ブランド店
娯楽施設、会議場、水族館も併設
日系の「ミキモト」「紀伊国屋」「KENZO」出店
 - ・サイアムディスカバリー、サイアムセンター改装終了による若者の集客力拡大
- (4) セントラルワールドプラザの大改装: 本年6月 OPEN
 - ・ザ・モール・グループに対抗。中産階級顧客獲得へ
 - ・25億バーツを費やし改装。15万㎡から30万㎡に増床。300店舗から346店舗へ拡大
- (5) 郊外への急激な出店

○ 小売業の戦略予測

- (1) 高品質商品の拡大
- (2) PB(プライベートブランド)商品の強化(他店との差別化)
- (3) 顧客ターゲット層を絞ったマーケティング活動
- (4) 異業種との共同開発
- (5) 価格の2極化

・好材料

FTAの妥結で関税率の低下に伴う輸入品の増加
新空港の完成によるツーリストの増加

	1992年	2003年
ツーリスト(全体)	500万人	→ 1,000万人
”(日本人)	57万人	→ 120万人

・懸念材料

原油高によるコストアップ
人件費アップによる人材確保難
タイ南部の暴動による社会不安

(3) まとめ

① バンコク病院

国際的に最高水準の医療を提供するとともに患者を顧客と捉え、クオリティーの高いサービスに努めている。特に、日本人（在留、旅行者）や周辺諸国（インドネシア等、アラブ諸国）をターゲットにサービスセンターを開設、健康診断・人間ドックや高度な医療（周辺・アラブ諸国は慢性期治療多）を提供していることは注目に値する。

住民にとっても当然であるが、企業や人材の誘致、移住・定住・交流人口の増、海外との交流等を促進していくことにおいて、高度な医療サービスの提供は必須と言える。医療体系、サービス体系、国内外の医療施設等との連携等参考にする点が多い。

② 伊勢丹（タイランド）

タイにおける卸・小売業のGDPに占める割合の高さが示すとおり、国民の消費意識は高く、小売業の店舗拡大の戦略は過熱気味とは言え、まさに、大規模小売店戦争の感がある。富裕層の増加により、高級品志向もかなりある。

伊勢丹（タイランド）の顧客は、タイ人 60%、日本人 27%であり、ターゲットはむしろタイ人としている。今後の戦略は、高いファッション性、高品質、そして『JAPAN』を売ることという。近年は日本文化が定着し、日本と日本食がブームとなってきている。

昨年、九州と青森の物産展を開催し、好評を得ている。九州の「なし」が 1個 400パーツ、青森の「りんご」は 1個 200～300パーツで販売され、その他ホタテや塩辛も人気が高く、青森の物産は現在も常設販売がされている。

新空港の開港が迫る中、仙台市がタイ・バンコクとの観光交流を進め、定期便の開設に力を入れている。タイと日本・東北地方との交流の拡大が期待される。伊勢丹側からは、岩手物産の可能性の高さについて示唆を受けた。